

## 目次

### 1. 流鏑馬とは

### 2. てんちょうちきゅう 天長地久 の式

### 3. 騎射

### 4. がいじん 凱陣 の式

### 5. 装束について

## 1. 流鏑馬とは

流鏑馬の起源は古く、6世紀の半ば（大和時代）、第29代欽明天皇<sup>きんめい</sup>が国内外の戦乱を収めるため、九州・豊前<sup>ぶぜん</sup>の国※1、宇佐において、神功皇后<sup>じんぐうこうごう</sup>・応神天皇<sup>おうじん</sup>を祀られ、「天下泰平・五穀豊穰」を祈願し、最も騎射に秀でた者に馬上より三個の的を射させた神事が始まりとされています。

流鏑馬の語源は「矢馳馬」つまり「ヤバサメ」が転じたもので「馬に乗って<sup>かぶら</sup> 鏑<sup>や</sup> 矢<sup>い</sup>を射<sup>なが</sup>す」に由来すると言われています。

古来、強弓<sup>つよゆみ</sup>※2を引き、遠矢<sup>とおや</sup>にかけて敵を射倒すことが武者の誇りであり、疾走する馬上から弓を射る騎射は、最高の武道として、武将たるもの弓矢を持って馬に乗ることが正装でありました。やがて、流鏑馬・笠懸<sup>かぶり</sup>※3・犬追物<sup>いぬおしもの</sup>※4は騎射の三つ物と言われるようになり、「天下泰平・五穀豊穰」を祈願して三つの的を射るのが流鏑馬です。

笠懸や犬追物は稽古として用いられ、流鏑馬は、神事として神社に奉納<sup>しんりょ</sup>して神慮<sup>しんりょ</sup>を慰めるという行事となり今日に至っています。

### 【用語解説】

※1 豊前の国：現在の大分県

※2 強 弓：張りが強く、引くのに力を要する弓

※3 笠 懸：疾走する馬上からの的に鏑矢を放ち的を射る日本の伝統的な騎射の技術・稽古・儀式・様式のこと。流鏑馬と比較して、より実戦的で標的も多彩であるため技術的な難易度は高いが、格式としては流鏑馬より略式となり、余興的意味合いが強い。流鏑馬、犬追物と並んで騎射三物と称された。

※4 犬追物：鎌倉時代から始まったとされる日本の弓術の作法・鍛錬法。流鏑馬、笠懸と共に騎射三物の一つ。

## 2. 天長地久てんちようちきゅうの式

奉行※1は馬場中央の記録所付近において「五行ごぎょうの乗法じょうほう」を行います。

奉行は乗馬したまま左回りに3回、右回りに2回馬を引き廻し、中央の位置で馬を止め、正面に目礼した後、鎬かぶら矢やを弓につがえて天と地に対して満月に引きしぼり国家の安寧と、五穀豊穰を祈念します。

その後、馬場本ばばもとに向かって再び行進を開始します。

行進中は六足一鼓で太鼓を打ちます。(序じょの太鼓)

奉行は下馬し櫓やぐらに組んだ記録所に上ぼり、諸役※2が部署についたのを確かめ「破はの太鼓」を打ちます。

馬場本、馬場末ばばすえの扇方おうぎかたは、扇で合図し準備が完了したことを知らせます。

これにより射手※3は順番に「素馳すばせ※4」を開始します。

### 【用語解説】

※1 奉行：それぞれの職により政務を担当し執行するもの。鎌倉幕府が幕府の職制として設置したことに始まる。または、主君などの命令を奉じて物事を執り行う人のこと。

※2 諸役：流鏑馬の際の手伝い役。装束に身を包み、矢を回収したり、旗を持って射手に順番を合図したりする役割を担う。

〔太鼓方〕行軍や凱陣の式などで太鼓を叩いて合図を送る役。

〔旗方〕行軍の先頭で紅白の旗を立て、一同を率いる役。

〔扇方おうぎかた〕扇を翻して馬が走る合図を送る役。

〔的目付まとめつけ〕的的的中判定と的的の架け替えを行う役。

〔幣方へいかた〕矢が的に的中したことを知らせる役。

〔矢取やとり〕射手が放った矢を拾い上げ射手に渡す役。

※3 射手：馬に乗り弓を射る人。

※4 素馳：射手が弓を射ずに全速力で馬場を走り抜けること。

### 3. 騎 射

#### (1) 式の<sup>しき</sup>的

式の<sup>いっしやくはっすん</sup>的は一尺八寸四方で、<sup>ひのきいた</sup>檜板を網代に組み、その上に白紙を貼り青黄赤白黒の五色（五穀を表す）で丸的を表し、的の後ろには四季の花が添えられます。

射手※1は式の<sup>しき</sup>的を3回ずつ奉射します。

<sup>しげとう</sup>重籐の<sup>ゆみ</sup>弓※2に矢をつがえ一の<sup>しき</sup>的を射て、さらに腰に差した矢を抜き二の<sup>しき</sup>的を射ぬき、さらに三の<sup>しき</sup>的へと全速力で駆け抜け、それぞれ3回9本の矢を射ます。

通常はここまでが奉納神事となりこれ以後は競いの<sup>しき</sup>的となります。

#### 【用語解説】

※1 射 手：馬に乗り弓を射る人。

※2 重籐の弓：武家の所有する正式な弓という意味。

#### (2) 競<sup>きょう</sup> 射<sup>しゃ</sup>

競いの<sup>しき</sup>的には特に決められたものは無く、その流派によって変わります。

日本古式弓馬術協会では、一尺四方の<sup>ひのき</sup>檜の板を<sup>しき</sup>的にしており、的中するとパーンと乾いた音がします。的中し割れた<sup>しき</sup>的板は、御守札や宝くじ的中祈願として非常に人気があり持ちかえる方もいます。

もう一つは三寸の土器（直径約 10 cm）の中に五色の切り紙を入れたもので、この<sup>しき</sup>的に命中すると土器は砕け、中の五色紙が吹雪の如く飛び散ります。

競射が終わると奉行※1は記録所で「止めの太鼓」を打ち鳴らし、射手※2は乗馬のまま、諸

役※3は手持具を持ち奉行のもとへ集まり、<sup>がいじん</sup>凱陣の式を行います。

### 3. 騎 射

【用語解説】

- ※1 奉 行：それぞれの職により政務を担当し執行するもの。鎌倉幕府が幕府の職制として設置したことに始まる。または、主君などの命令を奉じて物事を執り行う人のこと。
- ※2 射 手：馬に乗り弓を射る人。
- ※3 諸 役：流鏑馬の際の手伝い役。装束に身を包み、矢を回収したり、旗を持って射手に順番を合図したりする役割を担う。
- 〔太鼓方〕 行軍や凱陣の式などで太鼓を叩いて合図を送る役。
- 〔旗 方〕 行軍の先頭で紅白の旗を立て、一同を率いる役。
- 〔扇 方〕 扇を翻して馬が走る合図を送る役。
- 〔的目付〕 的の的中判定と的の架け替えを行う役。
- 〔幣 方〕 矢が的に的中したことを知らせる役。
- 〔矢 取〕 射手が放った矢を拾い上げ射手に渡す役。

### 4. 凱陣<sup>がいじん</sup>の式

競射で最も多くの的中させた射手は、式の的を持ち、奉行の前に進み出て跪座<sup>きざ</sup>※1します。

奉行は扇を開き骨間<sup>こっけん</sup>※2からの<sup>けんぶん</sup>的を検分します。

扇を戻し、太刀の鯉口<sup>こいくち</sup>を切った時、太鼓は3つ打ちます。

奉行の「エイ・エイ・エイ」の声に続いて射手と諸役一同が「オー」と唱和します。

これを3回繰り返し勝鬨<sup>かちどき</sup>※3を揚げます。（これは首実検の意を表わしている）

【用語解説】

- ※1 跪 座：右膝を付き左膝を立てる姿勢です。
- ※2 骨 間：扇の骨の間。
- ※3 勝 鬨：勝ったときに一斉に上げる喜びの声。

## 5. 装束について

奉 行：武田菱の定紋の綾檜笠<sup>あや ひ がさ</sup>に家紋を散らした 鎧 直垂<sup>よろいひたたれ</sup>に太刀を帯び、24 本

の征矢<sup>そ や</sup>を差した 箆<sup>えびら</sup>を負い、重藤<sup>しげとう</sup>の弓を持ち行膝<sup>むかばき</sup>を付け射沓<sup>い ぐつ</sup>を履く。

射 手：各々の家紋を散らした 鎧 直垂<sup>よろいひたたれ</sup>に射小手<sup>い ご て</sup>をさし綾檜笠<sup>あや ひ がさ</sup>を戴き、右腰には

矢三本（他の一本は弓に添えて持つ）前差<sup>まえざし</sup>及び尻鞆<sup>しりざや</sup>をかけた太刀を帯、

行膝<sup>むかばき</sup>を付け射沓<sup>い ぐつ</sup>を履く。

諸役の的目付： 鎧 直垂<sup>よろいひたたれ</sup>に後三年形の烏帽子をかぶり、前差<sup>まえざし</sup>、尻鞆<sup>しりざや</sup>をかけた太刀を帯び、白

足袋に白草履を履く。

その他の諸役： 鎧 直垂<sup>よろいひたたれ</sup>に後三年形の烏帽子を頭にし、前差<sup>まえざし</sup>を帯び、白足袋に白

草履を履く。